

# 会友インタビュー [6] グスタフ・アリンク

監修：国際委員会

## 音楽への興味とコンクール研究活動

現在私は国際ピアノコンクール研究者として世界中を巡っています。大学時代は数学を専攻しましたが、幼少からヴァイオリンを習い大学在学中も音楽への強い関心を持ち続けていましたので、進路選択の際は大変迷いました。考えた末卒業後は助手として大学に残る決意をしましたが、合間を縫って各国の音楽フェスティバルやコンクールに足繁く見学に訪れていました。結局1年半で大学を後にし、コンクール研究に専念することになったのです。

ピアノの他、ヴァイオリン、オーケストラにも興味がありましたが、全て回る時間もないので、演奏者人口が多くまた独立した職業であるという点で、ピアノのコンクール研究に対象を絞ることにしました。

このコンクール研究の目的は、ピアニストの地位向上とキャリア構築の支援です。音楽家としてのキャリアを築くのは大変な労苦を伴いますが、その理由の一つには、研究書やデータ集といったガイドラインがないことが挙げられます。テニスのコーチ本や百科事典等などは数多く出版されていますが、音楽コンクールに関する本はほとんど見かけません。そこで独自にリサーチを始めることにしたのです。

私は本来数学専攻なので科学的分析や情報収集に長けているという利点もあり、またピアニスト自身は演奏活動で手一杯なので、自分のような立場の者がやる意義があると思っています。

写真撮影も私の主要な活動の一つで、今やそのコレクションも膨大な数に上ります。実は現在一緒に活動しているマルタ・アルゲリッチとの最初の出会ひも、1981年ユトレヒトで行われたコンサートの楽屋で一緒に撮影したのがきっかけでした。その後たまたまジュネーブの駅で知り合いのドイツ人ジャーナリストと再会し、彼に付添ってアルゲリッチのご自宅にお邪魔したのです。その時私はコンクール研究書を執筆することを明らかにし、彼女に賛同頂いたのを覚えています。

その後、国際コンクールに関する文書や様々なデータを収集・調査し続け、1988年にそれをまとめたデータブックを発行、1990年には同書が再版されました。また同年、ピアニストとそのコンクール結果に関する本を執筆、現在20数ヶ国で発売されています。

## コンクール関係者とのネットワーク

これまで200以上の国際コンクールを、実際に目で見、耳で聴いてきました。開催期間中はコンクール主催者や審

査員、出場者と積極的に会話し、情報交換やヒアリングを欠かしません。現在では数千人規模に及ぶ個人レベルのネットワークがあり、これが様々な局面で役に立っています。例えば、ショパンコンクールの過去入賞者にコンタクトをとりたいという要望に、即座に答えを出すことができます。こうしたネットワークが、少しでもピアニストの手助けになれることは大変嬉しく思いますね。

また若手支援にも力を入れています。ジャン・マルク・ルイサダがショパン国際コンクールに出場する前、1983年ミラノで開催されたディー・ノ・チャーニ国際コンクールに参加しました。この時は大変素晴らしい演奏を披露し、2位に入賞しました。彼は併せて、同コンクール創立者アレックス・デフリースの未亡人より、若手ピアニストを支援する特別賞を授与されたのですが、実はこの表彰式前に私が彼女に電話をして彼への授与を勧めたのです。この賞はベルギーでのコンサート出演機会を提供するもので、ぜひとも彼の手に収めて欲しかった訳です。

こうした活動は、あくまでも演奏家のキャリア構築の支援が目的です。対話を通して、その人が自分に何が必要かを認識させる手助けするというスタンスです。

## 今後の展望

私は昨年設立したアリンク財団を、より公的な演奏家支援団体にしたいと考えています。その一つとして、年間1名特に優れた才能を持つ若手ピアニストを支援していく予定です。手順としては、まずその支援対象となるピアニスト名を公式発表して証明書を与え、場合によっては奨学金を授与することも検討中です。この構想は現在マルタ・アルゲリッチと共に進めている段階です。こうした活動を通して財団を拡大発展させると共に、ピアノコンクールのみならず、他の音楽コンクールにも活動範囲を広げていきたいと思っています。

またコンピュータを抱えて世界中のコンクールを訪れ、その場で情報交換や情報提供サービスができるよう、モバイルオフィス体制を実現させたいですね。また写真家としての活動も続けるつもりです。

そしてこれは究極の夢なのですが、やはり科学者として環境保護や動物愛護にも強い関心がありますので、政治的な側面から世界に貢献したいですね。世界中を旅して文化の違いを知った、この経験を生かしていきたいと望んでいます。

国際コンクール研究者として世界中を旅し続けているアリンク氏。2000年11月に開催された浜松国際ピアノコンクールにオブザーバーとして来日した氏に、コンクール研究のきっかけとその極意について、お伺いした。

取材&文◎菅野恵理子



写真家として多くのアーティストのプロマイド写真を撮影。タイムルマンから頼まれたことも。



当協会事務局長と、コンピュータの前で共に情報分析を。



ショパン国際コンクール審査員をスナップ。

# Gustav A. Alink